

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090500473		
法人名	ふく福介護 株式会社		
事業所名	グループホーム 吉兵衛どんの里 (こもれびの詩・わかたけの詩)		
所在地	〒803-0279 福岡県北九州市小倉南区徳吉南三丁目16番17号 Tel. 093-453-3515		
自己評価作成日	令和06年02月27日	評価結果確定日	令和06年04月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全職員で作った理念(安心と安全・季節感の訴求・地域密着)をベースに日々のケアに取り組んでいる。食事に関しても、ご入居者様より「美味しいね」と温かく優しいお言葉を頂いており、職員の励みとなっている。また誕生日、敬老会、クリスマス等バラエティーに富んだイベントを継続してご入居者様から溢れ出る笑顔もまた励みとなっています。全員参加の地域交流は、難しいところもあるが公民館清掃、ゲートボール等に参加し交流を深めることが出来ている。医療面に関しては、提携医による毎週の往診、皮膚科医による月1回の往診、訪問歯科等安心出来る医療体制が構築されている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel. 093-582-0294		
訪問調査日	令和06年03月23日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「吉兵衛どんの里」は、認知症高齢者が重度化しても最期まで安心して過ごせるホームを目指して開設された定員18名のグループホームである。看護師を配置し、提携医療機関医師の往診と緊急時の指示・対応、介護職員との連携で、24時間利用者の健康管理を行い、安心の医療体制の下、これまで多くの看取りに取り組んできた。業者から配達される食材を使ってアレンジしながら手作りの料理を提供し、利用者からも「美味しい」と好評である。「吉兵衛どんの里通信」を発行し、電話やメールでこまめに報告、連絡を行い、コミュニケーションの中から家族の意見や要望、心配な事等を聴き取り、解決に向けて迅速に取り組んでいる。令和5年11月に着任したホーム長の下、ベテランの職員が積み重ねた介護力に優しさをのせた温かな支援に努め、利用者や家族と深い信頼関係を構築している、グループホーム「吉兵衛どんの里」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が時間をかけて作った手作りの理念を職員の休憩室や玄関に掲示して常に実践を心掛けている。	ホームが目指す介護理念を玄関や休憩室等見やすい場所に掲示し、職員会議や研修の場で、理念が実践出来ているかを確認し、初心を忘れないように心がけている。職員は理念の意義や目的を理解し、利用者の気持ちになって、安心、安全な暮らしが出来るよう、利用者本位の介護サービスに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	R5.5月よりコロナが5類に移行となり、地域行事も再開されつつあるので、以前のように積極的に行事に参加し更に交流を深めて行きたい。	コロナ対策以前は、町内会の一員としてホーム長が、町内会の総会に出席して関係を築き、グランドゴルフ、運動会、敬老会等に利用者と職員が参加し、地域交流の輪を広げていた。新型コロナ5類移行に伴い、少しずつ地域交流の再開に向けて検討を始めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍前は地域の中学生が職場体験で来られていて、認知症への認識と理解、支援の方法を講義していた。時期をみて再開したい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に運営推進会議を実施し、参加者から意見や評価を頂いている。	新型コロナ5類移行に伴い、対面での運営推進会議を再開し、家族代表、町内会会長、隣組、地域包括支援センター職員の参加を得ている。ホーム運営や取り組み、利用者状況、事故等を報告し、参加委員からは、意見や質問、情報提供を受けて話し合い、ホーム運営や業務改善に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて報告、相談を行い協力関係を築ける様に活動している。	管理者は、ホームの空き状況や事故等を行政担当窓口へ報告し、疑問点や困難事例があれば相談して連携を図っている。運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状や取り組みを伝え、アドバイスを受ける等、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員「身体拘束となる行為」の理解を深めるため研修を行っている。	身体拘束の職員研修を開催し、身体拘束が利用者にと及ぼす弊害について学ぶ機会を設けている。具体的な禁止行為の事例を挙げて職員間で検証し、身体拘束をしない、させない介護の実践に取り組んでいる。玄関の鍵は利用者の状態に合わせて施錠することもある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員、虐待防止関連法の研修を行い、虐待防止委員会の設置、3ヶ月に一度会議を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在活用しているご入居者様はおられないが、職員には研修を実施し、いつでも制度を活用できるようにしている。	権利擁護の制度について、内部研修会で学ぶ機会を設け、職員の周知に努めている。現在制度を活用している利用者はいないが、必要時にはライトやミルト等の関係機関と連携し、利用者の権利や財産が不利益を被らない支援に取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に相談・ご希望等お受けし、ご家族様、ご入居者様に説明、納得の上署名、押印を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年8月にコロナが発生し面会すら出来ない状況であったが、9月以降制限はあるが、運営推進会議、面会も再開しその都度意見・要望をお伺いし話し合いをしている。	ホームの日常会話の中から職員は、利用者の思いや意向を把握し、家族面会時に利用者の希望や健康状態、生活の様子を報告し、家族から、意見や要望、心配な事等を聞き取り、ホーム運営や利用者の日常介護に反映させている。「吉兵衛どん通信」を送付し、利用者の暮らしぶりを家族に伝えている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を実施し会社の運営状況等を報告。職員からも意見、提案をしてもらっている。	毎月職員全体会議を開催し、事前に要望や気づき、問題点を挙げて話し合うようにしている。ホーム長は職員が話しやすい雰囲気作りを心掛け、活発な意見交換が行われている。ホーム長が現場に入り、職員と話し合う機会も多く、職員の意見や要望、気になる事を聞き取り、ホーム運営や介護サービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人手不足の中職員には協力して頂きシフトをこなしている。有給休暇取得等職員の希望に添えるよう努めているが、本部・上層部との意識の乖離がありモチベーションが中々上がらない。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に関しては、年齢・性別による対象除外は一切行っていない。就業後も職員の能力に合わせじっくりと業務を覚えてもらい仕事に対して自信を持ってもらえるように努めている。	職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄や介護に対する考えを優先し、採用後は研修や資格取得を奨励している。新型コロナ5類移行に伴い、職員の気分転換を図りながら、希望休、休憩時間が取れるように配慮する等、職員の処遇改善に取り組んでいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社内研修もおこなっているが、社外研修も積極的に受講出来るよう体制を整えている。	利用者の人権を尊重する介護サービスについて、職員研修や会議の中で話し合い、職員一人ひとりが理念を常に意識して介護の実践に取り組んでいる。北九州市の人権研修に職員が交代で参加し、利用者の人権尊重に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の経験を配慮し業務に必要な知識やスキルを習得出来るために指導・研修をおこなっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所への訪問・営業、勉強会・交流会への参加することで交流機会を得ている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から本人と面談をおこない不安な事、困りごと、要望等をお聞きしている。入居後も24時間シート、アセスメントをしっかり取り信頼関係を構築出来るよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に管理者、ケアマネジャーが家族と面談し不安・要望等を汲み取りケアプランへ反映させている。必要に応じてご家族様へ生活ぶりを報告している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様等からの相談時にはもっとも必要としている支援を見極め、それをケアプランに反映している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様と職員は共に生活を送るという事を常に意識し、一緒に洗濯物を干したり畳んだり、食器を洗ったり会話を楽しんだりして日々の生活を送っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様からの電話、面会時ご入居者様の近況報告をおこなっている。行事等写真があればお見せしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の影響で馴染みの方の面会が遠のいている。ご本人様が希望すればいつでも手紙等送れるように支援している。	新型コロナ5類変更に伴い面会制限を緩和し、家族や親戚、利用者の友人、知人の面会を歓迎し、面会しやすい対応を心掛けている。コロナ状況を判断しながら、家族の協力を得て、お墓参りや美容院に出掛けたり、自宅に帰る等して、利用者が長年築いてきた人間関係や地域社会との関わりが、ホーム入居で途切れないように取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いに快適なホームでの生活が送れるようにご入居者様の間に入る等しコミュニケーションの支援をおこなっている。必要があれば良好な人間関係維持のため席替えをお願いし、実施している。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族様とは電話、手紙等でやりとりをおこなっている。地域でお会いした際も声掛けさせて頂き、お話しさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者様一人ひとりの思いや希望についてセンター方式を用いて把握に努めている。意思表示が困難な場合には毎日の生活の中での表情により心の中を察したり、何を求めているかを考え、ご入居者様の希望に近づける様に心掛けている。	担当職員は、利用者の思いや意向を把握し、アセスメントに記録して、日常介護に活かせるように取り組んでいる。自己選択、自己決定が困難な利用者には、家族と相談したり、職員間で話し合い、職員が利用者寄り添い優しく話しかけ、表情や仕草から利用者の思いを汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様・ご家族様はもとより担当ケアマネジャーや利用されていた施設の職員等から直接話を聞き把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式、個人記録を用いて申し送りをし職員同士で情報共有をおこなっている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様とご入居者様の意向を聞き取りカンファレンスを開催し介護計画に反映している。また、主治医、歯科医、薬剤師、職員からの意見を介護計画に反映させている。ご家族様にも近況報告をし意見・指示等仰いでいる。	担当職員は、利用者や家族とコミュニケーションを取りながら、希望や心配な事を聴き取り、関係者の意見を取り入れて、利用者本位の介護計画を3ヶ月～半年毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った介護を行った場合、記録に青でアンダーラインを引き、ケアプランを常に意識している。またヒヤリハット、事故報告書を活用し再発防止に努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事やおやつメニューに変化(誕生日や行事)を付けマンネリ化しないよう努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館清掃、ゲートボールへ参加している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による毎週の往診はもとより特変時には随時往診や指示を仰いでいる。安心できる医療体制が構築されている。またホームにて歯科・皮膚科往診の対応もおこなっている。	利用者や家族の希望を優先して主治医を決めている。現在はホームドクターが主治医として隔週毎に往診を行い、看護師と介護職員が連携して24時間利用者の健康管理を行い、安心して任せられる医療体制を整えている。また、訪問歯科や皮膚科の往診を設けている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は看護職員へ確実に報告・連絡・相談をおこなっている。緊急時にはオンコール対応をおこなっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に確実に情報を伝え、退院までしっかりと情報交換・相談をおこなっている。退院後も通院時情報提供をおこなっている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	全てのご入居者様とご家族様へは、ご入居時に看取り介護の方針を説明し了解いただいている。重度化した場合は主治医指導の下、ご家族様、職員三者一体となり、話し合いをおこない方針を決め共有している。	契約時に、重度化や終末期の支援について、ホームの方針を利用者や家族に説明し了承してもらっている。利用者の重度化が進むと、家族や主治医と相談し、利用者が終末期を安心して過ごせるよう環境整備を行い、希望があれば看取りにも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修応急手当や初期対応の訓練が定期的におこなわれていないため、早急に対応する必要があるが急変等は、看護職員、主治医への連絡を徹底し、その指示のもと対応をおこなっている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練や夜間を想定した避難訓練もおこなっている。	火災やその他の災害を想定した避難訓練を実施し、夜間想定訓練では数名の職員が500メートルの距離に居住しているため、いざという時に駆けつける体制が整っている。非常時に備えて非常食、飲料水も備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのご入居者様に対して年長者として常に敬意を払い、否定する事無く受け入れた上で、その方に合わせた声掛けや羞恥心の配慮に努めている。	利用者のプライバシーを尊重する介護の在り方を、職員会議や勉強会の中で話し合い、排泄や入浴の支援では、声掛けや対応に注意して、利用者のプライドや羞恥心に配慮したサービスの提供に取り組んでいる。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様にご自身が選択できるシーンを日常生活の中に織り交ぜている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様のその日の状態(体調・気分)を把握しリビングで過ごされるのか、居室で過ごされるのか希望に沿いながら支援していく。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご入居者様は、2か月に1回の散髪。女性は入浴後に乳液をつけたり、男性は髭を剃ったりと身だしなみやおしゃれができるようにしている。衣替えの際は本人様と一緒に服を選んでいる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しんだ後は片付け、食器を洗ったりと職員と一緒に手伝って下さる。おやつレクの際も職員と一緒にお菓子を楽しみながら作っている。	業者から配達される食材を使用して、少しでも美味しく食べてもらえるように職員が手を加えながら作る家庭的な料理を提供している。食後の片付け等、残存機能に応じて利用者には手伝ってもらっている。おやつレクでは、利用者と職員と一緒に楽しみながらおやつ作りに挑戦している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を細かく日々記録にとり、一人ひとりの状態に合わせている。食事の形態も日々の状態により刻み食等個別に対応している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医・衛生士の指導、指示を仰ぎながら、職員の声掛けにて口腔ケアして頂いたり、介助にて行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人様の残存能力でどこまで出来るかを考え、ご入居様の排泄パターンを把握して極力、歩行にてトイレに誘導し、下肢筋力低下を防止できるように支援している。	職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、早めの声掛けや誘導で、利用者が重度化してもトイレでの排泄の支援に取り組んでいる。また、下肢筋力を鍛える生活リハビリを行い、出来るだけトイレで排泄が出来る支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医・看護師の指示の下、服薬を中心にコントロールしている。歩行や屈伸運動、体操を行い水分補給もこまめに牛乳やヨーグルトも摂取して頂いている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご入居者様一人ひとりのその日の体調や気分、タイミングに合わせて3日に1回入浴して頂いている。湯加減、入浴順もご入居者様毎に常に配慮している。体調不良の方は足浴やシャワー浴にて身体を温めている。	入浴は利用者の希望や体調に合わせ、週2日の入浴支援を行っている。湯船にゆっくり浸かってもらい、利用者職員が一对一で会話できる楽しい入浴支援を行っている。入浴拒否のある利用者には、時間をずらしたり、職員が交代して声掛けを行い、無理強いのない入浴支援に取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転されたご入居者様へは改善を目指し午後から昼寝の時間を設ける等チームで改善に努めている。安心して休めるようにエアコン調整にも気を配っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員はご入居者様の服薬状況を念頭に日々のケアにあっている。薬の変更時は特に症状変化に気を配っている。服薬時には職員にてダブルチェックを行いご本人様にも確認して服薬をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事前のテーブル拭きや、日めくりカレンダーめくり、洗濯物干し畳み、食器洗い拭きと個々に応じた役割を担って頂いている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	徐々にではあるが、ご家族様との外出の機会が増えている。職員と通院や買い物に行けるよう支援している。	新型コロナ5類移行に伴い、コロナ状況を判断しながら、少しずつ外出の再開に向けて検討を始めている。気候の良い時期はホーム周辺の散歩等、日常的に戸外に出かけ、利用者の気分転換に取り組んでいる。家族の協力を得て外出も増え、大変喜ばれている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居者様のお金はホームにてお預かりし管理している。職員と買い物に出かけた際ご自分で代金を払って頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングには「電話や手紙の支援が出来る」旨、掲示している。希望があればレターセット、絵葉書等出されている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下には季節ごとの飾り付け(お正月・鯉のぼり・七夕・クリスマス等)で、季節感を訴求している。また、童心を思い出される品々をさりげなく置いておりご入居者様にとって居心地のよいスペース作りを行っている。	ホーム玄関前のベンチや花壇等、利用者が日々の暮らしを楽しめる環境を整えている。季節毎の飾りつけや、昔を懐かしむレトロ風の飾りで、利用者が懐かしそうに、思い出話に花が咲いている。室内は家庭的で音や光、温度や湿度、換気に配慮して、明るい雰囲気の良い共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで談笑や、歌を一緒に唄ってくつろがれている。畳の間の座椅子に座ったり、廊下のソファで一人になれる環境作りも行っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時にご入居者様が使い慣れた家具、家族写真等馴染みのある物を持ち込んで頂くようご家族様へお願いし、自宅と変わらない様な空間で居心地良く過ごせるようにしている。	利用者が長年使ってきた馴染みの家具や寝具、仏壇、家族の写真、生活必需品等を持ち込んでもらい、家族と協力しながら馴染みの物に囲まれたその人らしい居室作りに取り組んでいる。生活環境が急変しないように配慮し、利用者が安心して穏やかに暮らせるよう支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を。トイレ、お風呂もご入居者様目線で分かりやすく表示している。すべての空間に手すりが設置され、居室にはセンサーやポータブルトイレを置き安全に努めている。		